

標本棚



私

と



趣味

ダイビングは老後の楽しみに

国立感染症研究所昆虫医学部・部長 沢辺 京子

私が育った長崎市は海に囲まれた町である。さらに付け加えると、両親の故郷は雲仙や天草四郎で有名な島原半島の海沿いにあり、私は夏休みのたびに浜で遊び、遙か沖までひとり泳いで行くような子供だったらしい。

就職・結婚後も海の遊びを楽しんだが、子供たちの成長と共にその回数は減り、ついには水着に着替えることすら煩わしくなってきた。今はこともあろうか「海なし県」に住んでいる。

元々ダイビングに興味はあったが、退職後の楽しみにと温めていたところ、体験ダイビングのチャンスがやってきた。その結果、これは退職まで待つてはられないと考え直すことになり、当初の予定より七年も早くライセンスを取ってしまった。

以来、伊豆や沖縄に毎年出かけ、合計五十五本、潜水時間はようやく三十五時間を超えた。



アジやイカの大群に今夜の肴を想像し、マンタの集団を息を止めて見守った。ウミガメの後ろについて泳ぎ、ニモ(カクレクマノミ)やドリリー(ナンヨウハギ)の写真を年賀状にした。

しかし昨年、石垣島で白化したサンゴ礁を目の当たりにすることに。地上では温暖化によるヒトスジシマカの生息域拡大が問題になっているが、海中でも温暖化や環境破壊が進んでいることを知った。一瞬、本業を思い出した。

それはともかく、ダイバーがサンゴを傷つけることでも白化が進むことを



最高の週末

アベックス産業(株)取締役業務部長 竹田 文崇

「待っているのは最高の週末だ」この文章が目にとまった方はサッカー好きですね？

私もそうです。好きなスポーツはサッカーで、小学校から続いている趣味です。今でも無理をしない程度にやっています。

とはいえ、観ることの方が多くなりました。この十年、あるチームを応援して、スタジアム観戦を続けています。このスタジアム観戦には応援とは別に、もう一つ楽しみがあります。それは全国のスタジアムを見ることです。目標は全スタジアム制覇です。現在のところ二十二箇所達成、残りは十八カ所です。

チームの勝敗や成長、それに合わせて次に行くスタジアムはどんなところか？などと考えを巡らせることが楽しくて仕方ありません。そうです。待っているのは最高の週末なんです。



当社フットサルチーム 写真後列左端が筆者

江戸城築城の秘話

その一 土塁と石垣の話 江戸文化歴史研究員 窪田 孝

徳川家康が江戸に本拠を定めることになり、城郭都市づくりが始まった。日本の中心の城であり、全国の大名を総動員して建設された。

現在、一部が公開されているが、内堀、外堀で囲まれた城郭の大きさは、日本で大阪城の数倍の規模である。そこで注意してみると、堀の景色の違いに気づくであろうか。石組みや土塁をたくみに組み合わせているが、石垣が立派であったり、土塁が美しかったり違いがある。



天下普請として、全国の大名城郭の普請を分担させたことにより、それぞれの国の

技術力の違いが出てくる。西国の大名は戦国の世から戦いに明け暮れ、また、良質な石材が産出されたり、水運による運搬技術もあることから、石垣の取扱い技術が優れていた。一方、東国の大名に於いては、土塁に拠る城郭技術が優れていた。



一般公開されている皇居東御苑や北の丸、また、内堀・外堀を見るときにぜひ、その造りを観ていただきたい。普請を担当した国により、石垣を中心にしたり、土塁を中心にしたりと、バラエティに富んだ堀、石垣の観察が楽しめる。散策のおり、観察してみてください。

☆一枚小説☆

遠雷 女流画家 堀 桂子

日射しが少しばかり斜めになって来た。昼も半ばを過ぎる頃になると、家の中の静寂がこぼれ落ちてくる。里子は静寂が嫌いだ。この静寂の中にいることが、毎日辛かった。

ああまた...と思うと耳鳴りがした。ツーン、シャーシャー、自分にしかわからない音である。ここ何年来、この耳鳴りに悩まされ、なるべく音を絶やさないと生活をして来た。

CDから流れるバツハ無伴奏チェロ組曲が終わると、セロニアス・モンク、マイルス・デイビスなど、お気に入りモダンジャズを流すことにしている。一人の生活に慣れたはずの里子だったが、どうにもならないやせなさに包まれていた。子供ができない夫婦は、こんな別れ方になってしまうのかと思うのだった。何の絆もないのだから。

「じゃあな」と言い捨てて、ここを出て行った浩介が閉めたドアの音、遠ざかって行く靴音。それがツーン、シャー



羽音

ーシャー、の耳鳴りとコロコロトして里子の頭の芯にへばりついて離れなかった。

浩介が出て行って一年になろうとしている。些細な口喧嘩が思わぬことに変わり、浩介の口から「君とはこれ以上やって行けない。はっきり言うができてしまったのだ」「えっ?」「いや、なに、その、二年続いている女だが、俺の子を妊娠したから。すまぬ!別れてくれ」。

そもそも身勝手な男だとは以前から思っていたが、そんな男を夫に選んだ里子は身の置きどころがなかった。

「これが私の人生なんだわ...」里子は今までのことが遠い風景に思えた。光と風と夢が交錯している。絹糸のような雲がさらさらと流れて行った。

来月で四十八才を迎えることをはつきりと悟った。看板でも出して、書道教室の生徒を募集することも考えた。そんな折、友人から「子供に書道を教えてほしい」旨の電話がきた。人を教えることができるだろうか...と庭の樹々を眺めていた。時間が停止している。遠くで雷が鳴っていた。

港区魚籃坂下 やきとり大船

今回のご紹介は、地下鉄南北線・都営三田線の白金高輪駅を降りて数分、港区魚籃坂下の交差点脇の「やきとり大船」です。五坪ほどの小さなお店で、二階に椅子席もありますが、一階のカウンターがメイン。十二、三名も入れば満員という立ち食い飲み屋です。といつても「やきとり大船」は、創業六十五年、近くから現在地に移動して十六年、知る人ぞ知る老舗です。狭いながらも楽しい我が家といった雰囲気は、家族経営のお店と常連客の和気あいあいとした暖かさに溢れています。やきとり中心のメニューは豊富でどれも安価。しかも美味しいのですから、時間別に客層を変えながら、連日賑わうのも納得です。毎日、築地で活きのいい食材を仕入れ、日々の衛生管理にも配慮は十分。飲み助ならずとも、仕事帰りちよいと一杯と、暖簾を潜りたくなるのも納得。今夜もぜひ楽しい一時を!

【営】月～金、16:30～23:30 土、16:30～21:30 【休】日曜、祝日、第三土曜 【電】03-3441-4692



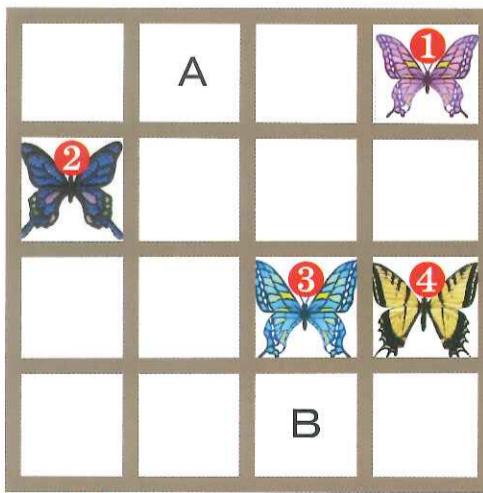
会員鑑

アベックス産業(株) 業務課 石井 岳志 平成二十八年入社 フレッシュマン。趣味は菜園。最近では枝豆の栽培に凝っている。シミューレーションを好むゲームでもある。家系ラーメンにこだわりを持ち、脂は少なめが好み。酒は強い方ではないが、すっきり系の日本酒に挑戦中。仕事を始めて知ったクモの生態に魅了されている。

アベックス産業(株) 業務課 河久津 夏暉 平成二十八年四月入社 新人。仕事への姿勢は真面目だが、車の運転は苦手。社用車を擦った回数数は数知れず、今後の努力課題の一つ。東京農業大卒の昆虫青年で夜な夜な秘蔵の標本を愛でながら杯を傾ける風流人。休日は標本のオークション巡りや昆虫採集。沖繩への社員旅行にも、手製の吸虫管を持参した。

むしくいす

問題 柀の中に四種類の蝶がいます。空いている柀に縦・横・斜めに四種類の蝶を同じ種類がダブらないように配置してください。



【答え】AとBには何番の蝶が入るでしょうか。それが答えです。

◆応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。〒105-0014 東京都港区芝2の23の4 アベックス産業(株) APEX CLUB宛 ファクシミリ番号 03-3455-6558 締切は平成29年8月末日(当日消印有効) 正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。★前号の正解と当選者(順不同) 正解は『蠟(ロウ)』でした。当選者は：繁田 博、鎌田 晃の2名様です。